

## ちょっとだけ「へえー」な 新しい緑化工法

所属：グリーン産業株式会社

氏名：大高 章

部門：建設



### 北陸支部

#### 略歴

1971年生れ  
新潟県出身  
趣味：競馬  
抱負：世界と日本の  
持続的発展の  
ためになれば

#### －はじめに

今回の投稿テーマについて、何かないかと思考を巡らせた結果、「感動」には少し足りない気はしますが、最近私が技術開発に少しばかり関わった、ちょっとだけ「へえー、そんなのあるんだ」というような新しい緑化工法を紹介させて頂きたいと思います。

#### －従来工法では・・・

斜面の緑化工法で最もポピュラーな工法の1つに植生基材吹付工（厚層基材吹付工）があります。簡単に説明すると、切土等により裸地となった箇所に、植生基盤材と呼ばれる人工土壌（木質系堆肥等）を専用の吹付機を使って斜面表面に高圧で吹付けて、植物の生育領域となる植生基盤層を造成し、植生を回復するものです。ここで、大量の植生基盤材（1,000㎡でおよそ13万リットル）が必要になる訳ですが、この植生基盤材が入った袋（容量40リットル）が空袋（13万リットルで3,250袋）として残ります。これらの空袋は、現在全て産廃（廃プラ）として焼却または埋立処分されています。

#### －新工法・・・空袋が発生しません

そこで、昨今のエコブームをとらえて静岡の某緑化資材メーカーさんが開発中だった新技術の開発に加わり、産廃発生抑制＝空袋が発生しない新しい緑化工法を世に送り出すこととなりました。あまり宣伝するのも気が引けるので、ここでは仮に緑化工法 OKB48（Q（ゼロ）KARA-BUKURO、48は流行の・・・）とします。緑化工法 OKB48（仮名）は、緑化資材包装袋の素材に「生分解性プラスチック」を使用しており、発生した空袋は、専用の造粒機を用いて現場内で破碎・造粒化することで緑化資材へと再資源化し、植生基盤材と混合吹付することを可能としました。再資源化された空袋は写真③のような造粒ペレットとなり、基盤の中で数年かけて水とCO<sub>2</sub>に分解されるため、周辺環境への悪影響はありません。従って、空袋が全く発生しないことになります。

#### －おわりに

「建設リサイクル推進計画2008」（国交省）において、廃プラを含む建設混合廃棄物削減量の目標値としてH27年度までにH17年度比-40%が挙げられており、緑化工法 OKB48（仮名）が削減目標に貢献できるものと考えております。なお、当工法は国交省の「NETIS」に登録されておりますので、興味のある方はそちらで「環境対策緑化」と検索してご覧頂ければと思います。

